

平成 30 年度 第 2 回土木計画学委員会幹事会 議事録

日時：平成 30 年 10 月 10 日（水） 13：00～15：00

場所：土木学会 E・F 会議室

■ 出席者(敬称略)

委員長：藤原章正(広島大)

副委員長：奥村誠(東北大)，毛利雄一(IBS)，佐々木葉(早稲田大)

幹事長：佐々木邦明(山梨大学)

学術小委員会：土井健司(大阪大)，紀伊雅教(徳島大)

大会運営小委員会：吉井稔雄(愛媛大)，塩見康博(立命館大学)，秋大会開催校幹事：大井尚司(大分大学)，春大会開催校幹事：若林拓(名城大学)

委員兼幹事：石橋知也(長崎大学)，太田恒平(トラフィックブレイン)，藤井聡(京都大学)，中矢昌希(中央復建コンサツタンツ)，紀伊雅教(徳島大)，栗原剛(東海大)，松永千晶(九州大)，眞田明子(JICA)，吉田樹(福島大)，神田佑亮(呉高専)，稲垣具志(日本大)，岩田圭祐(寒地土研)

■ 資料

- [資料 1] 議事次第
- [資料 2] 学術賞委員会報告
- [資料 3] 大会運営小委員会報告
- [資料 5] 春大会準備状況
- [資料 6] 活動評価・中期目標対応
- [資料 7] 本委員会・全国大会対応
- [資料 8] 研究小委員会対応
- [資料 9] HP 担当
- [資料 10] 国際セミナー
- [資料 11] ワンデイセミナー・シンポジウム
- [資料 12] 全国大会研究討論会
- [資料 13] 財務 WG 担当
- [資料 14] オリパラ TDM に関する取り組み

■ 議事

1. 開会

(1) 委員長挨拶

藤原新委員長から開会の挨拶がなされ、立て続けに発生した災害への対応について抱負が述べられた。

(2) 新副委員長・新幹事挨拶

佐々木副委員長、各新任幹事から挨拶がなされた

2. 学術小委員会報告（報告：紀伊）【資料2】

- 査読が完了したこと、研究発表会の運用変更の移行期につき臨時特別小委員会の開催予定等が報告された。
- スケジュールの変更について周知の懸念が提示された。秋大会にてアナウンスすることが提示された。

3. 大会運営小委員会報告

1. 春・秋大会の運用変更について（報告：塩見）【資料3】

- 研究発表会の春・秋大会の運用変更に伴うスケジュールの詳細が提示された。
- 臨時委員会の立ち上げに関する手続きは何か必要か？
→通常通り、委員長からの指名で委員に委嘱すればよい。
- 広報の徹底についての議論がなされた
 - 切り替えにかかる混乱が起きないように、論文集・研究発表会の変更に伴う周知を、ML、Webも活用しながら進める。
 - 単なる委員会報告ではなく「研究発表会の運用変更説明会」と称して参加を呼びかけた方がよい。
 - 名称が「春」「秋」だけでなく、「一般投稿型を春に」というようなタイトルやアナウンスの工夫を検討してほしい。
→春を「一般型」、秋を「テーマ型」として広報する
 - 委員会を待たず学術小委員会の判断をもって周知を始める
- 変更に伴う下記の懸念について議論された
 - 春大会は、企画が立ち上がりを待たずに自由が投稿できる旨
 - 春大会の締め切りが早まることは民間業務報告がタイトになる
 - 研究発表と論文投稿の権利関係と締め切りの関係を明確に

- 査読論文投稿の挑戦可能回数が移行につき増える旨

2. 秋大会（第58回土木計画学研究発表会）報告（報告：塩見）【資料なし】

● 準備状況

- 参加者利便のため、臨時バス、鉄道の増結、駐車場の入構証、ホテルの仮押さえ、一時保育の調整が進んでいる旨が報告された。
- 学生スタッフについて、大分大、文理大に加えて九州大、九工大も視野に入れて調整する
- チュートリアルセッション、現地セッション、懇親会等の準備が進んでいることが報告された。
- コンベンション協会の補助金等、財源の確保等の準備を林事務員と協力して進めることが報告された。

- 初日 11/23 12-13 時の委員会への出席が佐々木幹事長に呼びかけられた。会場については決まり次第報告する。

● 災害調査報告

- 災害調査報告は1時間。北海道地震について室蘭工大の有村先生から5-10分程度の報告を追加したい旨が佐々木幹事長から提案された。
- 関西の台風被害についても報告を追加できないかという提案があった。
→多田野先生ら、関西方面の先生方にお問い合わせできるか問い合わせる。
- 北海道地震と関西台風を追加すると時間がタイトになるので、時間を延ばせるか調整する。

3. 春大会準備状況報告（報告：松本）【資料5】

- 2019年6月8,9日の開催に向けて準備が進んでいることが報告された。
- 投稿準備期間短縮に伴い、口頭発表が減ってポスター発表が増える可能性はあるか？
→発表件数が減る可能性はあるが、どちらにしても原稿は必要なので、ポスターへの移行はあまり無いだろう
- 一時保育の会場確保が苦戦している件が報告された
 - イオンにも託児所は無い
 - 保育所ちびっ子ランド ナゴヤドーム南園という一時保育所が使えるかもしれない
- ナゴヤドームで野球の試合が開催される場合の交通混雑は大丈夫か？
→普段の授業でも乗り切っているので大丈夫ではないか
- ポスターは幅の広い廊下両面を使う形態でよい

4. 平成 30 年度幹事担当タスクの検討状況報告

(1) 活動評価・中期目標対応（報告：佐々木）【資料 6】

- ・ Web フォームで評価を幹事で記入する方法が提示された。

(2) 本委員会・全国大会対応：（報告：佐々木）【資料 7】

- ・ 委員会メンバーについての説明がなされた。
- ・ 佐々木幹事長の名前が漏れているので修正する。

(3) 研究小委員会対応：（報告：佐々木・中矢）【資料】

- ・ 小委員会の報告方法の見直しを要望している旨が佐々木幹事長から説明があった。
- ・ 中矢幹事から下記の提案がなされた。
 - 委員会の Web サイト更新：Web サイトの更新がなされておらず、報告義務もない。3 か月か半年ごとの情報更新を促す仕組みづくり
 - ワンデイセミナーについての定量評価
 - 研究成果の可視化：出版や実務の貢献などの評価
 - 活動量の可視化：作業時間など活動のインプット
- ・ 藤原委員長からの意見
 - 関心があればどんどん小委員会を立ち上げてもらって、発信を心がけてほしい。
 - 作業量の管理よりも、現地での実践、システム開発などアウトプット・アウトカムを重視してほしい。
 - ワンデイイベント開催の名前貸し程度で、さほど大きなメリットは無いので、作業コストを上げるのはバランスが悪いのでは無いか。
 - 様々なテーマを検討し継続してきた記録が残る。
 - コンクリートでは示方書売って活動費に充てている。
- ・ 評価の必要性は何か？
 - 土木学会から必要と言われているわけでもない
 - 年次評価の際に情報がほしい
 - →負担が増えず PR できる方向性で検討
- ・ 研究小委員会を立ち上げるメリットは何か？
 - セミナー等で土木学会の会場を無償で利用できる。
 - 予算措置は無い。ワンデイセミナーの補助ができるか？
 - Web サイトに年 1 回程度活動 PR を更新してもらってはどうか。
 - Web サイトが SNS での PR などに使いづらく、結局イベントごとに告知サイトを立ち

上げることになってしまっている。ここはWeb サイト移行で改善する可能性ある。

(4) HP 担当（報告：太田）【資料】

- ・ 昨年度中の Web 移行の進捗が芳しくなく、立て直しを行う旨が報告された。
- ・ 新メンバーも交えて、多言語対応も合わせて進めるよう指示がなされた。

(5) 国際セミナー（報告：岩田）【資料 10】

- ・ Web サイト更新を現行 Web サイト上に更新するにあたって、Web 担当からの方法伝授を踏まえて、担当幹事で役割分担する旨が報告された。
- ・ 国際セミナーの認定方法は何か？
→ワンデイセミナー等のイベントについて、海外からの講師招待、英語議論、規模を条件に、国際セミナー担当が ML で察知してセミナー担当者に声をかけ、Certification を発行している。
- ・ 国際セミナーとして認定されるメリットは何か？
 - 告知上のメリット、Certification 発行に伴う講演者のプレゼンス向上。
- ・ 実際はもっと英語イベントはあるはずなので、積極的に登録を呼びかけてほしい

(6) 国際センター・出版委員会担当（報告：佐々木）

- ・ 来年 4 月開催に向けて、12/15 に論文投稿を募集している。

(7) ワンデイセミナー・シンポジウム（報告：佐々木）【資料 11】

- ・ 土木計画学委員会直轄でのセミナーも開けるようになったので提案を期待している。

(8) 全国大会研究討論会（報告：太田）【資料 10】

- ・ 「観光と土木 in 北海道」を 8/29 に開催した旨が報告なされた。
- ・ 全国大会の研究討論会自体が、参加費、遠隔地、計画学の参加者が少ないなどで盛り上げが困難という課題が提示された。
- ・ 計画学における全国大会の位置づけについての議論が行われた。
 - 学術委員会が全国大会への投稿を促す告知をしているが、「単に促すだけでは増えない」という意見をもらっている。計画学として見直しは考えているか？
 - 他の分野から「計画学の参加者が少ない」という指摘も来ている。
 - 「災害」など計画学だけでなく土木学会内の他分野との連携が必要なことをテーマにしてはどうか。今年度の「土木と観光」はそのような趣旨によるテーマ設定。

- 魅力を高める、費用を下げるのと合わせ技で解決する必要がある。
- →「本委員会・全国大会対応」の担当幹事で議論を始めてほしい

(9) 総務担当：特になし

(10) 財務 WG 担当（報告：佐々木）【資料 13】

- ・ 平成 30 年度予算案について報告された。収入が減っているのは、2016 年度春大会の収入が多かったのが、例年通りに戻ったため。

(11) オリパラ TDM に関する取組（報告：佐々木）【資料 14】

- ・ 東京オリンピック・パラリンピックの TDM に、3 学会（都市計画・交通工学）合同で学生が参加する TDM 企画の依頼が、オリンピック組織委員会からあったことが報告された。
- ・ 「学生による TDM 提案コンペ」の提案がなされた。
- ・ 企画内容について、学生のアイデアに依存した取組で良いのか議論がなされた。
 - →塚田専務理事らと再度相談する

7. その他

以上